



藤田 剣次

福岡支部 支部長

競輪補助事業については僕らがきちんと理解して、若い選手たちに伝えるのも大切なことだと感じました。

今回は適材適所の人材を結びつける独特のアプローチで中小企業支援を行っている「九州産業技術センター」を訪ねました。同行していただいた藤田支部長には訪問しての感想や、福岡支部についてお話を伺いました。

競輪つてこんなことやってるんだ!!

福岡は今、胸を張つてどこよりもいい雰囲気だと言えます！
久留米に導入したナイトー設備で売り上げアップや新規ファン獲得も。

——補助先を訪問されてどんな感想を持たれましたか。

「僕たちが走つた売り上げの一部が、こういう目に見えないところですごくいい使われ方をされていることに驚いた反面、感動したというか。これまで補助事業と言つても、正直なところ詳しく把握できていなかった部分もあるんですけど、やっぱり立場的にも僕らがきちんと知つて選手たちに伝えるのも大切かなって感じましたね。特に若い選手たちには自分たちが走る。ところが、こういう色々なことに役立てられているんだと伝えることで、だからこそ少しでも多くのお客さんにきていただいで、売り上げを上げる努力が大事なんだよつていう違う角度からの教え方もできますし」

——現在の福岡支部の雰囲気などは？

「僕は胸を張つて一番いいと言えますね。選手一人一人の意識改革ができてきていると思いますし、いろんなことに対して皆で悩んで、皆で打開策を見つけて、失敗しなくてもいいからやってみようつていう感じで、チャレンジしてきました。例えば久留米競輪場にナイトー設備を入れたのもそうで、先輩に飯塚オートの選手会の会長さんと会わせてもらったのがきっかけで、夏場以外は寝かせている飯塚オートのナイトー設備を久留米まで持つて行けないかと話をして、使わせてもらえることになったんです。ナイトー開催によつて売り上げも上がったし、新規のお客さんの獲得にも繋がりました。今、福岡の公営競技全体で協力して盛り上げて行こ

うという流れになつていて、そういう意味でもかなりいい雰囲気だと思えますね」
——補助事業の取材の中でも仰つていましたが、やはり人と人との繋がりが大きな実を結ぶと。

「僕はそこが一番大切だと思つていて、それは選手とファンの間でもそうだと思うんですよ。いろんなイベントをやる中でファンの方との交流もたくさんあるんですけど、最近感じるの温かい声援が増えたなど。やっぱりそれは選手との触れ合いがあるからこそで、すごく嬉しいことだなつて。それと未来の競輪選手に憧れる子供たちの入り口を広げる意味で、久留米では2ヶ月に1回バンク開放日を作つて子供たちに遊んでもらつたり、中学生や高校生の練習なんか僕ら選手やOBで見えています。そういうことが自転車人口の拡大に繋がると思つので」
——ファンの皆さんにメッセージを。

「もう競輪は素晴らしいという一言に尽きるんですけど、日本が生んだこの競輪つていうのは本当にすごいなつて思うんですよ。僕らはこれからもつともつと努力して競輪の素晴らしさを伝えていくべきだと思つし、ぜひたくさんの方に競輪を応援してもらいたいです」